

事例 4

「書くこと」の言語活動を通して小説を的確に読む

1 育成を目指す言語能力

本単元は、文学的な文章を読んで、人物、心情などを的確に読み取るという言語能力を育成するために計画したものである。「現代文」の学習指導要領の指導事項の「イ 文学的な文章について、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わうこと。」を指導の中心に取り上げ、「登場人物の様子や生き方、人物の心情の推移などを的確にとらえている。」という評価規準で評価する。

教材である小説「鞆」（安部公房）を的確に読み取るために、言語活動例の「ウ 文章の理解を深め、興味・関心を広げるために、関連する文章を読んだり創作的な活動を行ったりすること。」を参考にして、「小説を読んで考えたことをもとに、論理の展開や構成を工夫して小論文を書く」という言語活動を取り入れる。読む学習の中に表現活動を取り入れることにより、読む能力の伸長を図るとともに、表現力の向上も期している。

本単元は、第3学年における年間指導計画の5月に位置付け、事例3で紹介した、評論「垂直のファッション 水平のファッション」（鷲田清一）の単元に続いて実施した。前単元で学習した、論理の展開や構成の仕方の工夫を、本単元の「書くこと」に関する言語活動に生かすことで、小説を読み深めさせるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深めさせたり発展させたりする。

2 学習活動の概要

(1) 単元名 「書くこと」の言語活動を通して小説を的確に読む（5時間）

(2) 単元の目標

小説を読んで、人間、社会などについて、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めたり発展させたりする態度を身に付ける。 （関心・意欲・態度）

小説を読んで、登場人物の様子や生き方、人物の心情の推移などをとらえる。 （読む能力）

言葉による認識の可能性を広げ、思考力を深め感受性を豊かにすることにつながるように、語彙を豊かにする。 （知識・理解）

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
小説を読んで、人間、社会などについて、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めたり発展させたりしようとしている。	小説を読んで、登場人物の様子や生き方、人物の心情の推移などを的確にとらえている。	言葉による認識の可能性を広げ、思考力を深め感受性を豊かにすることにつながるように、語彙を豊かにしている。

(4) 指導と評価の計画 (5 時間)

時間	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1 (2	<p>小説「鞆」を読み深めるために、小説を読んで考えたことをもとに、論理の展開や構成を工夫して小論文を書く</p> <p>全文を通読し、初発の感想や疑問点をまとめて発表する。</p> <p>「青年」と「私」の心理を言動に即して的確に読み取る。</p> <p>「鞆」がどのようなものとして描かれているか、本文から抜き出してまとめる。</p> <p>「鞆」が「私」を支配していく様子をまとめる。</p> <p>「鞆」が象徴するものや、小説を読んで考えたことについて自分の考えをまとめる。</p>	<p>生徒から出された意見、疑問点を集約して板書し、作品に対する関心を深めさせる。</p> <p>「青年」の答え方と「私」の鞆に対する興味の深まりに注意させる。</p> <p>「私」の行動と心情の変化に注意させる。</p>	<p>読む能力、知識・理解 (発表、ノートの記述の確認)</p>
3	<p>「『私』が考えたこと」について600～800字程度の小論文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論点に沿って結論部に当たる自分の考えをまとめる。 ・自分の主張を支える具体例を書く。 ・評論「垂直のファッション 水平のファッション」で学んだ文章の論理の展開や構成の仕方を生かす。 	<p>評論のワークシートを参考にして、「序論・本論・結論」の三段落構成でまとめさせる。その際、次のような、文章の型の例を示して助言する。</p> <p>序論：話題提示型、問題提示型、意見提示型</p> <p>本論：事例考察型、反論容認型</p> <p>結論：感想型、思索型、解決型</p>	<p>読む能力、知識・理解 (作品の分析)資料1</p>
4	<p>小論文をグループで相互評価する。</p>	<p>客観的な視点から具体的に評価させる。</p>	<p>読む能力、知識・理解 (相互評価票資料2の記述の確認)</p>
5	<p>自分の小論文に対する友人の評価を読んで、自分の考えを深めたり発展させたりする。</p> <p>友人の評価を参考にして自分の小論文を評価する。</p> <p>優れた作品の数編を読む。</p>	<p>記号による評価だけでなく、コメント欄に留意させる。</p> <p>「十分満足できる」と判断される小論文の数編を読ませて、まとめとする。</p>	<p>読む能力、知識・理解 (自己評価票資料3の記述の確認)</p>

「関心・意欲・態度」は、単元全体を通して評価する。

3 評価の例

本単元の目標は、「文学的な文章を読んで、人物、心情などを的確に読み取る」ことであり、その学習を効果的に進めるために、「小説を読んで考えたことをもとに、論理の展開や構成を工夫して小論文を書く」という言語活動を取り入れた。

「十分満足できる」と判断される生徒の作品例[資料1]では、序論において小説に描かれた「自由」への疑問が提示される。本論では、私たちが普段感じている「自由」の具体例とその考察が述べられ、小説における「自由」と私たちの「自由」との類似性が指摘されている。これらを通して、人間が求める「自由」が、実は「何からも拘束されないこと」ではなく、「拘束された中で初めて感じるができるものである」と結論づけられる。評論「垂直のファッション 水平のファッション」の単元で学んだ論理的な文章展開や構成の「型」を生かして書いている。

4 成果と課題

(1)成果

この実践は、「小説を読んで考えたことをもとに、論理の展開や構成を工夫して小論文を書く」という言語活動を取り入れることによって、「人物、情景、心情などを的確に読み取る」能力の育成を目指したものである。小論文を書くに当たっては、評論の単元で学習した論理的な文章の展開や構成の「型」を生かして書くことに留意させた。評価に当たっては、各時の学習活動に応じて、ノートの記述の確認・小論文・相互評価・自己評価等を用いた。

小論文の記述内容から評価した、小説の内容の読み取りに関しては、単元の評価規準に照らして、「十分満足できる」と判断されるもの(38%)と、「おおむね満足できる」と判断されるもの(42%)を合わせて80%に上った。自己評価[資料3]では、「文章展開の『型』が理解できたか。」の問いに対して、「A できた」(22%)、「B だいたいできた」(44%)となっている。

小論文の相互評価[資料2]では、多くの生徒が、互いの作品の良い点・改善すべき点を、客観的・分析的な視点から具体的に述べている。「相互評価」を取り入れることで、「書くこと」への客観的な視点を得られ、それぞれの生徒の課題が明確に意識される。自己評価[資料3]の自由記述にも、約7割の生徒が「相互評価を生かして、次は説得力のある小論文を書きたい」と意欲的に述べており、相互評価が「書くこと」の意欲の向上に効果的に機能している。

(2)課題

自己評価の項目の、「文章展開の『型』を利用して、全体の構成を考えて書けたか。」の問いに対しては、「A できた」(0.8%)、「B だいたいできた」(42%)となっており、理解と運用との間に大きな隔りがある。今後も「書く」活動を効果的に取り入れる必要がある。

小論文の記述内容から「努力を要する」と判断される生徒の中には、「教材自体が難解すぎて、読み取れず書けなかった」、「作品自体に興味がわからず、自分の考えもないので書けない」(「自己評価」の感想)と述べている例もあった。これらの生徒に対しては、グループ活動を取り入れて学び合う場や意見交換の場を設けたり、ブレインストーミングを用いたりするなど、様々な指導の工夫が必要であろう。

参考文献

- ・『現代文2』東京書籍株式会社

「十分満足できる」と判断される生徒Bの「小論文」作品例

この小説を読んで一番疑問に思ったのは、どうして「私」は大きな鞆を持つていても自由だと感じる事ができたのかということである。他者からみれば鞆に拘束されていて、とても自由だとは思えない状況である。

しかし、私たちが普段求めている自由と、事務所の男の人が感じた自由は全く違うわけではないと思う。私達は生きていく限り何かで束縛されている。法律や規制もその一つである。それらに拘束された状態の中でも自由だと思ふことはある。例えば、くじ引きなどで賞品が当たった時に、店の人が「この中から好きなものを自由に選んで下さい」などと言うことがある。しかし、よく考えてみると「この中から」などと制限されている。適切な例ではないかもしれないが、このような時の自由と事務所の人が感じた自由は同じだということができる。もし、人が本当に何からも束縛されなかったら、人はそれを自由だと感じるだろうか。校則のない学校があつたらどうだろうか。授業の時間割も服装もすべて自分で決めることができる。普段の生活と違うので、最初のうちは楽しいかもしれない。しかし、毎日自分ですべてのことを考えて実行すると、自由すぎることに逆になんか負担に思えてくるだろう。

だから、人は拘束のある中でも、多少の選択の余地やゆとりがあるような状況で自由を感じるのだと思う。そう考えると、私が最初に感じた疑問は解消される。私が最初に疑問に感じたのは、普段自由というものを拘束された中で感じていたということ意識したことがなかったからだ。人の求める自由とはなく、拘束された中で感じる事ができるものなのだ。

相互評価票の記述例

「鞆」小論文 相互評価票 3年組 ()さん

1 主張は明確か。

A とてもよい (B) どちらかといえばよい C もう少し努力が必要

アドバイス等

二段落目で、「拘束されていることがありえないと考えた」とあるが、その理由が述べられているとよかった。三段落とも疑問点から始まっていたので、どちらかにしぼるとよい。

2 主張を支える事実や体験が明確に示されているか。

A とてもよい (B) どちらかといえばよい C もう少し努力が必要

アドバイス等

自分が拘束されていると思うときの具体例と、その他の具体例の2つが挙げられていてとてもわかりやすい。13行目の表現が難解であった。

3 文章展開の「型」を利用して、全体の構成を考えて書いているか。

(A) とてもよい B どちらかといえばよい C もう少し努力が必要

アドバイス等

冒頭の疑問点、わかりやすい具体例、最後の結論というように、しっかり構成されていた。

相互評価票の各項目の記述例

「1 主張は明確か。」の項目について

- ・「義務や責任」があっこそ私たちは自由でいられるという主張に基づいて文章が書かれていて、矛盾していなかった。
- ・「自由」の辞書上の意味と本文や現代における「自由」の感じ方の違いと、その原因まできちんと述べられていて良かった。
- ・靴についての説明を分かりやすく例を挙げて伝えているだけで、何を言いたいのか分からない。（作者の意見と自分の意見がどう違って、どこが一緒かなど）文章中で「思う」がたくさんでてきているのでもう少し、言い方を変えると良いと思う。
- ・「靴」に対して自分の考えをしっかりと主張できていると思う。筆者が現代人に対しての批判を書いているが、自分はむしろ良いとしてとらえたということを素直に書いているところが、小論文としておもしろい。

「2 主張を支える事実や体験が明確に示されているか。」の項目について

- ・「授業中に……」「修学旅行などで……」と、学校生活での身近な体験が挙げられていて分かりやすかった。私もそう感じたことがあるという共感できるものだった。
- ・私たちにも身近な「法による拘束」を例に挙げていて、分かりやすかった。自由の本来の意味のことを書いてある段落はわざわざ独立させず、詳しく説明が書かれている次の段落に加えてみても良いと思った。
- ・携帯電話やパソコンなど、現代のものに置き換えた例を挙げていて分かりやすかった。また、「拘束されているのは昔からだ」と述べるために、戦争時代の例を挙げていて、誰が読んでも納得できる仕上がりになっていた。

「3 文章展開の型を利用して、全体の構成を考えて書いているか。」の項目について

- ・最初に疑問を述べて、例を挙げて結論という構成でまとまりがあって良い。
- ・今後どのようにしたら良いかが書いてあって良かった。主題に対しての答えもあって、全体的に良くまとまっていた。
- ・序論に明確な問題提起があるし、例が結論部へ自然につながっていて気持ち良く読める。
- ・全体的な構成はきちんとできていると思う。段落分け方もきちんとできていて読みやすい。文章展開の型の利用は、少し足りないところもあるかもしれないが、全体的に良い文章だと思う。

「鞆」小論文 自己評価票 3年組 ()

1 目的に応じて、題材を選んで書けたか。

A できた B だいたいできた C もう少し努力が必要

目的に応じられなかった。他の人に比べて、題材の内容がずれていた。「鞆」の内容にふさわしいものではなく、ひたすら「自由」について述べていた。

2 主張は明確か。

A よい B どちらかといえばよい C もう少し努力が必要

主張は明確にできたと思うが、読み手を説得できなかったと思う。反論を加えたが、客観性や意見のバランスが偏っており、物足りない。

3 主張を支える事実や体験が明確に示されているか。

A よい B どちらかといえばよい C もう少し努力が必要

もっと明確な具体例があればよくまとめられたと思う。事実もあまり深く考えられなかったので、読み手を説得できなかったと思う。

4 文章展開の「型」が理解できたか。

A できた B だいたいできた C もう少し努力が必要

プリントを見て、だいたいできた。覚えたらきっと更にうまくなるだろう。

5 文章展開の「型」を利用して、全体の構成を考えて書けたか。

A できた B だいたいできた C もう少し努力が必要

序文、共感、反論、結論の構成は意識した。また、序文の疑問の答えを結論でまとめられるようにした。

6 小論文を書いた感想

構成については型をまねればよいのだが、主張のまとめ方や意見の展開の仕方、どうすれば読み手を納得させられるかなどを考えるのが難しかった。相互評価するのも自分の弱点がわかるのでよかった。でも匿名にしてほしかった。私は自分の意見を主張することが苦手なので、自分の考えが題材にふさわしいか自信がなかったし、うまく書き表すのも大変だった。もっと上手に書けるようになりたい。

自己評価票の各項目の記述例

「1 目的に応じ、題材を選んで書けたか。」の項目について

- ・「鞆」の世界と私たちの生きる世界は異なるが、物に依存してしまう人間の心理は変わらないという点で書くことができたと思う。
- ・拘束されていることに気付かない恐怖を書きたかったので、パソコンと戦争を選んだ。
- ・自分が言いたいことと、そのことの例示が繋がりがなくて、題材の選択がもっと違うもののほうが良かった。
- ・自分が疑問に感じたことは文頭にはっきり書いたが、主張などは少し具体性、説得力が欠けているように思えた。

「2 主張は明確か。」の項目について

- ・主張を裏付ける内容等が抽象的すぎてあいまいな感じがした。
- ・「～と思う」という表現が多すぎたので、どれが主張だか分からなくなってしまった。
- ・「鞆」についての言い換えのようになってしまって、主張をあまりできなかった。「思う」という表現ばかりで主張が弱くなってしまった。「～である」などを使うようにしたい。
- ・「自分の意志を持つことが大切」ということを主張したが、この話に合う主張かどうか疑問が残った。

- 「3 主張を支える事実や体験が明確に示されているか。」の項目について
- ・もう少し明確な事実や体験を取り入れるべきだった。
 - ・ひとりよがりの例になってしまった。
 - ・主張にやっきになってしまい、事実や体験が抜けてしまった。今後気を付けたい。
 - ・事実は分かりやすく書けたと思うが、上手く結論にたどり着いていないような気がする。
 - ・「靴」の要約部分が多くて、例が書けなかったのがだめだったと思う。
- 「4 文章展開の型が理解できたか。」の項目について
- ・「確かに」というように、反対意見も提示することが分かった。
- 「5 文章展開の型を利用して、全体の構成を考えて書けたか。」の項目について
- ・「疑問点」「逆接」「理由」「例」をかたよりなく書けたと思うが、まとめをもっと具体的かつ簡潔に書くべきだった。
 - ・反対意見を肯定した内容の段落を入れた。
 - ・自分の言いたいことと最終的な結論がつながってなくて、分かりにくい文章展開になってしまった。
 - ・反論容認型を利用すると書きやすかったけれど、それに内容を肉付けするのが難しかった。
 - ・文章展開の型を使うことによって、少しは小論文らしくなったと思う。しかし、自分の伝えたいことを納得いくようにまとめることができなかった。
- 「6 小論文を書いた感想」について
- ・主張が書けても、その後どう続けてまとめるかで迷った。評価を参考に、もっと上手に書けるようにしたい。
 - ・はじめは面倒くさかったが、本論を書き始めたら、身近な例が次々に浮かんで、スラスラ書くことができた。個人的に「靴」の内容は好きなので、とても楽しく書けた。
 - ・初めて文章展開の型を意識しながら書いたので難しかった。
 - ・先生にアドバイスを頂いて結果的には上手くまとまったかな…。今後もう少し書くことに慣れて自力で構成できるようにならなければいけないと思う。
 - ・まだまだ練習不足で、目標の字数まで達することができなかった。自分の主張はある程度明確に書けたが、その先の文章展開があまり発展できなかった。次はもっとうまく書けるように頑張りたい。
 - ・「靴」の内容があまり良く分かっていなかったなので、それについての意見文を書くのは大変だった。書くことで自分の「靴」への理解も深まったのでよかった。
 - ・授業中に題材がまったく選べず、期限に追われながら書いたので、良く書けたとはいえない。けれども、説得力があるかどうか言い回しをあれこれ工夫して書いた。普段は小論文を書いたら書きっぱなしなので、また機会があれば相互評価や自己評価ができればと思う。
 - ・自分の考えを表現するのは難しいと思った。人に評価してもらったことで、自分の癖を指摘してもらったり、アドバイスしてもらったりしたので、自分のものをより客観的に読めるようになったと思う。これを生かして説得力のある小論文を書けるようになりたい。
 - ・「靴」の小説自体が、ページ数が少ないわりに内容がとても難しかったので、作者の考えを読み取ることがとても大変だった。他人に評価されて、自分の弱点をはっきり指摘してもらえたので、次に生かしたいと思う。